

# 郷土資料館だより

Vol.39 No.1

2016.8.1

## 企画展「源頼朝と伊豆—史跡と伝承—」開催中

- 開催期間 平成28年7月16日(土)～9月22日(木・祝)
- 会場 郷土資料館1階企画展示室

武家政権である鎌倉幕府を開いた源頼朝<sup>みなとのおよしも</sup>といえば、みなさんも学校で必ず習った「英雄」ではないでしょうか。頼朝は父、源義朝<sup>みなとのおよしも</sup>が平治の乱で敗れたことに連座して永暦元年(1160)に伊豆に流されて以降、治承4年(1180)に挙兵するまでの約20年間を伊豆地域で過ごしています。後に征夷大將軍となった頼朝が若き日を過ごした伊豆には、頼朝ゆかりの史跡や伝承が残る地が数多く伝わっています。

今回の企画展は市制施行75周年と、伊豆の国市との「歴史・文化交流及び協力に関する協定」1周年を記念して、三島市、函南町、伊豆の国市を中心に源頼朝に関する史跡や伝承地を紹介します。

### ●主な展示内容

- ・浮世絵「源頼朝山木館夜討図」(写真)
- ・史跡北条氏邸跡出土資料
- ・頼朝に関する史跡、伝承地を多数写真パネルで紹介



浮世絵「源頼朝山木館夜討図」  
3枚続きのうちの1枚

### 関連事業

#### ◆「頼朝ゆかりの地巡り①三島編 ウォーキングツアー」 定員30名

開催日 9月17日(土) ※雨天中止

内容 郷土資料館を起点に、三嶋大社、間眠神社など下田街道沿いに点在する頼朝ゆかりの地を徒歩でめぐります。

#### ◆「頼朝ゆかりの地巡り②函南・伊豆の国編 バスツアー」 定員25名

開催日 10月13日(木)

内容 史跡北条氏邸跡、願成就院ほか函南から葎山周辺の頼朝ゆかりの地をバスでめぐります。

※いずれも要予約、要実費(拝観料等)、内容の詳細は広報みしま、郷土資料館ホームページでお知らせします。

## 企画展「三島宿と三嶋暦」報告

- 開催期間 平成28年4月28日(木)～7月3日(日)
- 会場 郷土資料館1階企画展示室 ●展示資料数 138点 ●入場者数 13,126人
- 関連事業 展示解説(①5/29(日)、②6/25日(土)各2回) ●参加者 合計52人

今回の企画展では、千貫樋から新町橋までの三島宿内の主な施設に関するもの、本陣や旅籠に宿泊した旅人に関するもの、三嶋暦に関するものを展示しました。

宿場の展示では古文書が中心になるため、街道絵図の主要な部分を翻刻をしたものを配布資料として置いておいたところ、多くの方にお持ちいただきました。

三嶋暦は綴暦のなかでも最も古い部類に入る天明9年暦(関守敏氏蔵)、寛政9、10年暦(特種東海製紙株式会社蔵)をお借りして展示することができました。

展示解説では熱心に聞き入っていただくだけでなく、質問をしてくださる方もあり、市民の皆さんが三島宿の歴史に対して高い関心を持っていることを感じることができました。



## 三四呂人形と頼朝伝承

昭和初期に活躍した三島出身の人形作家、野口三四郎の作品である三四呂人形は、和紙で作られた張子の人形です。家族や子どもをモチーフとしたものが多く、素朴で温かみがあり、今なお多くの人々に愛されています。

そんな三四呂人形のなかでは珍しく、大人の女性をモチーフとしたのが「黒髪」です。張子の素朴な作風ながら、どこか妖艶さを漂わせるこの女性は、源頼朝との悲恋で知られる八重姫をモデルにしたものとされています。

八重姫は東伊豆の豪族・伊東祐親の娘で、配流中の頼朝と恋に落ちたといわれています。二人は千鶴という男の子をもうけますが、それを知った父・祐親は激怒、八重姫を他家に嫁がせたうえ、幼い千鶴を川に沈めて殺してしまいました。頼朝も命を狙われますが、祐親の子・祐清が頼朝に密告したおかげで頼朝は伊東から逃れて生き延びました。以上のエピソードは、『曾我物語』などで語られるものです。

このエピソードと、頼朝が後に結婚する北条政子との恋を元に作られたのが、歌舞伎狂言『大商蛭小島（おおあきないひるがこじま）』です。源頼朝と妻で伊東祐親の娘・辰姫（八重姫）は、素性を隠して正木幸右衛門とその妻・おふじとして伊豆の下田で手習いを教えています。おふじはやきもち焼きで、弟子入り志願のおます（実は北条政子）の弟子入りを嫉妬から止めさせます。ある日地獄谷の清左衛門（実は文覚）から父・義朝の髑髏を見せられた正木幸右衛門は素性を明かし、源氏再興を決意します。妻おふじも、源氏再興のために夫をおますに譲りますが、内心嫉妬に狂う、というのが、二番目世話場のあらすじです。この、嫉妬に狂いながら髪をすく場面で唄われるのが長唄「黒髪」で、三四呂人形の「黒髪」はこの場面の辰姫（八重姫）をモチーフにしたものです。

野口三四郎が人形を作り始めたのは彼が三島を離れ東京で生活をするようになってからです。第一回人形芸術院賞を受賞した作品「水辺興談」は三島のまちを流れる川で遊ぶ子どもをモチーフとしているように、彼の作品には故郷・三島を感じるものも少なくありません。この「黒髪」を作品とするときも、三四郎は故郷で聞いた頼朝の伝承に思いを馳せていたのでしょうか。

辰姫こと八重姫の悲しみや情念がにじみでるような作品「黒髪」は、開催中の企画展「源頼朝と伊豆一史跡と伝承」で展示しています。合わせて頼朝と八重姫、千鶴の伝承が残る伊東の史跡など、伊豆の各地に伝わる頼朝伝承や史跡を紹介しています。ぜひご観覧ください。



三四呂人形「黒髪」

## 富士・沼津・三島3市博物館共同企画展 「駿東・北伊豆の戦国時代—北条五代と山中城—」開催のお知らせ

●三島市開催期間 平成28年10月15日(土)～平成29年1月22日(日)

●三島市会場 郷土資料館1階企画展示室

沼津市開催期間 平成28年11月12日(土)～平成29年1月29日(日)

沼津市会場 沼津市明治史料館

富士市開催期間 平成28年12月17日(土)～平成29年2月26日(日)

富士市会場 富士山かぐや姫ミュージアム

※上記3館においてスタンプラリーを実施します。3館すべてをご覧の方に景品をプレゼント!

●主催 富士・沼津・三島三市博物館連絡協議会

三島・沼津・富士地域は今川・北条・武田3氏の戦国大名がしのぎを削った地域であり、歴史資料・史跡・伝承などが数多く残されています。今秋から来春にかけて、三島市郷土資料館・沼津明治史料館・富士山かぐや姫ミュージアムの3館では、“戦国時代”を共通テーマとした企画展を開催します。この機会にぜひ3館すべてをまわり、駿東・北伊豆地域の戦国時代の景観に思いを馳せていただければ幸いです。

三島市郷土資料館では、天正18年(1590)におこった山中城の戦いをクローズアップし、北条氏の領国としての三島地域の歴史について、古文書や出土資料などを用いてご紹介します。11月には講師の先生をお招きし、講演会の開催を予定しておりますので、そちらも是非お運びいただければと思います。

### ●主な展示内容

- ・山中城跡の出土遺物
- ・豊臣秀吉発給の掟書(写真左)
- ・山中城絵図(写真下)
- ・天正18年成立の御縄打水帳(検地帳、写真右) など



### 関連事業

◆講演会「駿東・北伊豆の戦国時代」(仮題)

開催日 11月13日(日) 講師 駿河台大学教授 黒田基樹氏 会場 三島市民生涯学習センター3階講義室

※定員140名。事前申込み優先。会場へは公共交通機関をご利用ください。

◆学芸員による展示解説

開催日 11月20日(日)/11月23日(水・祝) 時間 ①11:00～/②13:30～

## 館蔵資料の紹介 「山中城絵図」



本図は、小田原の役(豊臣秀吉が北条氏を攻略した戦い)の緒戦となった山中城の戦いについて、城郭の構造から、各将の配置、豊臣方の進軍経路までを描いたものです(掛け軸、1幅、館蔵)。天(紙の上方)を南とし、地(紙の下方)を北としていて、南西(三島方面)から城郭内を通過して北(小田原方面)へ抜ける豊臣方の進軍経路が朱筆で示されています。また北の丘陵部には「秀吉陳(陣)場」(秀吉の陣所)と墨書され、二ノ丸の門付近には「松田右兵衛太夫直長」(山中城主松田康長の子)の名が墨書されています。

本図は左下の書き入れから、享保12年(1727)仲夏(5月)に多米時昭という人物が、地図・家譜(家の系譜)をもとに作成し、山中城の戦いの戦死者の菩提が弔われている宗閑寺(山中城三ノ丸跡に所在)に寄贈したものであるとわかります。多米時昭は、この戦いで北条方の先鋒をつとめ、討死した上野国箕輪城(群馬県高崎市)の城主多米長定の子孫であり、先祖長定の墓は現在も宗閑寺の境内に残っています。

## 中郷村と三島市の合併

—昭和29年(1954)3月31日—

郷土資料館には中郷村の行政資料が収蔵されています。この資料から、昭和29年の三島市と中郷村の合併が三ヶ月余という短期間に進行していった様子が判明しました。

資料等に初めて「合併」の文字が出てくるのは昭和28年12月3日付け、静岡県総務部長から市町村長宛の「国における町村合併促進基本計画について」の通知です。これは「本年10月30日の閣議決定において国における町村合併促進基本計画が決定された」通知で、基本計画の内容は「昭和31年までに小規模町村（人口8千未満）を合併し、町村数を約三分の一に減少するもの。28年度は啓発宣伝し、29年度中に本格的な合併を実施する。」など強力に合併を推進する国や県の姿勢がよみとれます。

この通知を基に、三島市の合併に向けた動きがはじまります。12月に三島市から中郷村に合併の申しこみがあり、中郷村ではこれを受けて、翌29年1月8日の議会で「合併にかかる研究調査審議等を行う中郷村町村合併審議会」を設けています。この審議会において、村民の産業発展と福祉増進のため、合併したほうがよいという結論に達しました。

2月20日、中郷村議会及び三島市議会の臨時議会在開催され、合併について審議しています。議員からの意見はみな合併に前向きなもので、「中郷村民とともに大三島市建設にまい進したい」「中郷村が永久にきえるので、一脈の寂しさを感じず、発展的解消であることを思えば輝かしい希望を持ちえる」「我々新地域の村民もあたらしい市民として旧三島市民と一日も早く融合いたしてよき市民となり、よりよい三島市の建設に協力いたして参りたい」と両議会とも満場一致で可決されています。

この議決を受け、2月22日付けで静岡県知事宛に三島市長松田吉治と中郷村長風間賢作の連名で「市村合併についての申請書」が提出され、「田方郡中郷村を廃しその全部の区域を三島市へ編入、昭和29年3月31日から施行」と申請しています。

合併を必要とする理由として、「三島市では80%が箱根急傾斜地帯で、市街発展の活路を南の周辺平坦部（中郷村）に求めている。また中郷村の主要生産である農作物の消費は三島市に依存している。地理的・経済的・社会的に三島市と中郷村は融合しているため、村民の福祉と大三島市建設の上から必要。」と相互補完の関係を強調しています。

ほかの記録を見ると、昭和23年、26年頃に両市村の合併の機運がありましたが、いずれもさまざまな反対があり、合意にいたりませんでした。合併関係記録を見る限り、行政と議会が国による合併促進の機会を生かし、合併に向けて尽力したことがわかります。

中郷地域は合併後、狩野川台風、コンビナート反対運動などの試練を受けながらも、国道136号の開通、工業団地開設などの基盤が充実する中で、農業と工業地帯及び幹線道路沿いの商業施設がバランスよく発展する住みやすい地域となっています。



三島市長及び中郷村長から県知事宛の合併申請書  
(昭和29年(1954)2月)



中郷村全図(昭和28年(1953))

## 三島の歴史とジオポイント・7

### —江戸時代から定位置を守り続ける石燈籠—

三嶋大社の西脇にある祓所神社前の西側一帯には御殿川低地が広がっています。その中を東西に延びる「桜小路」を西に進み「赤橋」を渡り、50mほど行くと、左手（芝本町2・旧芝町2丁目）に1基の人の背丈ほどの古い石燈籠がひっそりと佇んでいます。その上側には建物に固定された小さな「秋葉社」があります。

燈籠の竿部の彫り込みには、正面に「常夜燈」、右面に「秋葉山」、左面に「町内安全」、裏面に「天保13年（1842年）壬寅10月吉日」、とあります。

三島宿を含む「東海道」や「根府川通（現・下田街道）」には江戸末期に常夜燈として設置された石燈籠が多数ありましたが、昭和以降の道路拡幅工事や街灯が電柱に付けられたため、燈籠は撤去され寺社の境内に移築されました。本燈籠は市内および周辺地域で唯一、現在も街角に置かれている常夜燈です（清水町の旧東海道沿いのものは100mほど西に移動している）。非常に貴重な石燈籠です。

本燈籠の笠・中台・竿・基礎の石材は、現在の伊豆の国市・北江間地区から産出した砂質で丈夫な「江間石」（長岡凝灰岩上部層：数百万年前、伊豆半島が南海の火山島群だった頃、噴火で海底に堆積した火山灰や火山砂が固結したもの）です。宝珠は金属製で、これは20年ほど前に「赤橋」の改修工事を行った際、不要になった擬宝珠（ぎぼし）を転用したものだそうです。火袋の石材は直径1cm前後の白色軽石を多量に含む火山灰が浅海底に堆積・固結した凝灰岩（江間石の類）で、非常に脆弱です。そのため最近補修されました。

江戸時代に設置された石燈籠のうち、竿が本燈籠と同じ「江間石」製のものは、市内に30基あります。しかし、それらの全てが火袋だけは別の石材で作られており材質は様々です。本石燈籠の火袋と同じ石材を使った火袋を市内で探すと、浅間神社、芝岡神社、守綱八幡神社、八坂神社などにもあり、設置時期は異なります。

石燈籠は全部品を同質の石材で作ります。つまり、本燈籠の火袋は「作り直し」と思われます。市内の「火袋の石材」が他の部分と異なる石燈籠は昭和5年（1930年）より古い物ばかりです。また、その石材の中には大正時代以降に三島で使用されるようになったものが多いです。

これらからすると、本燈籠の火袋は昭和5年11月26日早朝の「北伊豆地震」で破損し、ほかの石燈籠の破損した火袋と一緒に作り直されたと考えられます。

本燈籠は幸運です。地域住民の方々が愛情を込めて守り続けてきました。特に旧芝町2丁目の方々は「秋葉講」を作り戦前から現在まで、大切に本燈籠と秋葉社を守り続けています。燈籠と秋葉社の置かれた約1m四方の空間は「秋葉神社のミニ境内」を形成しています。

しかし、以前60軒ほどあった秋葉講の加入者は現在10軒ほどに減ったそうです。三島宿の歴史を現在に伝える大切な文化財である本燈籠が、いつまでも現在地に残り、人々の心を照らし続けてくれることを期待します。



本町から桜小路を見る、手前に石燈籠、奥は三嶋大社



石燈籠と秋葉社

（郷土資料館運営委員・増島淳）

## 郷土教室・体験イベントの報告

郷土資料館では、楽しみながら学べる体験イベントをボランティアさんと一緒に開催しています。平成28年5月から6月までに行った事業をご紹介します。

日程	郷土教室	内容	参加者
5月5日(木祝)	こどもの日体験デー	折り紙でこいのぼりを作る、おおきなカブトを作る、コマ・けん玉・竹とんぼ遊び	95人
5月15日(日)	古代の暮らし	火おこし体験、勾玉づくり、土器当てクイズ、弥生人風衣装を着る	95人
6月11日(土)	昔のどうぐ	石臼・鯉節削りの体験、和菓子の木型でねんどを型抜きして色を付ける、常設展示室「三島の暮らし」の見学	63人
6月25日(土)	江戸時代の三島宿	旅人装束を着る、三島の昔話を題材とした紙芝居の実演、三島宿を中心とした展示解説	52人

### 8～9月の郷土教室予定

日程	郷土教室
8月4日(木)	型染め体験(カードづくり)
8月10日(水)	古代の暮らし
8月20日(土)	クラフトづくり
9月4日(日)	江戸時代の三島宿
9月11日(日)	昔のあそび



開催時間 10:00～12:00、13:00～14:30  
みなさまの参加をお待ちしています。

## ふるさと講座「伊豆半島ジオパーク探訪⑤」報告

- 開催期間 平成28年5月31日(火) 午前8時20分～午後4時10分
- 講師 静岡県地学会東部支部長 増島 淳先生
- 見学地 「伊豆半島ジオパーク」に登録された西伊豆エリアを中心とするジオサイト4ヶ所(旭滝柱状節理・堂ヶ島水底土石流・一色枕状溶岩・黄金崎熱水変質)、ジオリア(伊豆半島ジオパークミュージアム)
- 参加者 30人

平成24年度以来の好評を受け、本年度も増島淳先生のご案内のもと「伊豆半島ジオパーク探訪」を実施しました。今回は5回目となり、昨年同様定員を上回る多数のご応募をいただきました。

当日は終日好天に恵まれました。まず今年4月にオープンしたばかりのジオリアを訪れ、伊豆半島の形成史について概要を学んだ後、旭滝を見学、そののちは一路、西伊豆町を目指しました。堂ヶ島で水底土石流が堆積した地を歩いたあと、ビジターセンターの一室をお借りして昼食をとり、一色、黄金崎を巡ってそれぞれの地形の特質を目に焼き付けました。バスでの移動中も増島先生より、車窓から見える沿道のジオポイントについて丁寧な解説をいただきました。参加された方々は熱心に聞き入り、終了後には「噴火の力のすごさ、たくみさを確認できました」「とても楽しい一日でした」といった感想をお寄せいただきました。



一色の枕状溶岩



堂ヶ島の水底土石流

## 平成27年度 郷土資料館事業報告

### ●企画展

展示名	実施期間	主な展示内容	入館者数
「新規収蔵品展」	4月18日(土) ～6月28日(日)	平成24年度後半～26年度に館が収集した資料を紹介 ●地域史関連資料 ●名主家の資料 ●戦争関連資料など	10,531人
「こどもとあそび」	7月18日(土) ～9月16日(水)	江戸時代から昭和時代までのこどものおもちゃを紹介 ●江戸時代のこどものあそび ●モダンな大正おもちゃなど	10,235人
関連事業：かわり屏風を作ろう、展示解説 (8/1) 2人			
「絵はがきでみる三島」	10月10日(土) ～12月13日(日)	なつかしい三島の様子を絵はがきを通じて紹介 ●富士山と三島 ●街のにぎわい ●伝える絵はがきなど	16,435人
関連事業：講演会「絵はがきと写真でみるふるさと三島」、展示解説 (11/13・11/21) 21人			
「三島のまつりの今」	平成28年 1月3日(日) ～4月10日(日)	それぞれの地域の実情に合わせて変化した「まつりの今」を紹介 ●ヤッサモチ ●オテンノウサン など	15,760人
関連事業：展示解説 (1/9) 16人			

### ●その他の展示

生涯学習センター日本文学資料館「茂吉をめぐる歌人たち」展示、三嶋曆師の館、西小学校郷土資料室

### ●講座・教室・講演会

	講座名	開催日	人数	講座名	開催日	人数
郷土教室	こどもの日体験デー	5月5日(火祝)	145人	昔のあそび	10月18日(日)	64人
	国際博物館の日事業 古代の暮らし	5月10日(日)	57人	旅人装束を着てみよう	10月24日(土)	22人
	立版古をつくろう	5月23日(土)	34人	布ぞうりをつくろう	11月7日(土)	14人
	型染め体験	6月6日(土)	35人	かみしばい	11月7日(土)	49人
	昔のどうぐ	6月13日(土)	47人	楽寿園の自然	11月15日(日)	74人
	かみしばい	6月27日(土)	20人	立版古をつくろう	11月28日(土)	7人
	楽寿園の自然	7月19日(日)	81人	ワラ細工をつくろう	12月5日(土)	48人
	旅人装束を着てみよう	7月25日(土)	17人	昔のあそび	12月13日(日)	6人
	昔のあそび	7月30日(木)	65人	リリアンあみでサルをつくろう	平成28年 1月17日(日)	15人
	かわり屏風を作ろう	8月1日(土)	7人	旅人装束を着てみよう	1月23日(土)	20人
	古代の暮らし	8月6日(木)	54人	棹ばかりづくり	1月30日(土)	3人
	昔の暮らし	8月9日(日)	123人	昔のどうぐ	2月6日(土)	51人
	機織り体験(講師：杉山洋子氏)	8月9日(日)	11人	富士山の日協賛事業遊んで学ぼう富士山デー	2月23日(火)	95人
	クラフトづくり	8月16日(日)	36人	昔のあそび	3月12日(土)	101人
	昔のどうぐ	9月13日(日)	37人	棹ばかりづくり	3月13日(日)	2人
立版古をつくろう	9月26日(土)	19人	古代の暮らし	3月26日(土)	68人	
型染め体験	9月27日(日)	15人	郷土教室 計33回		1,442人	
講座	ふるさと講座 「伊豆半島ジオパーク探訪④」 講師：増島淳氏	5月29日(金)	30人	三市博物館連絡協議会文化財講座 「駿東・北伊豆の戦国時代 バスで行こう！城跡めぐり」	11月11日(水)	45人
講演会	企画展関連講演会 「絵はがきと写真でみるふるさと三島」 講師：関守敏氏	10月31日(土)	52人	三市博物館連絡協議会文化財講座 「駿東・北伊豆の戦国時代」 講師：前田利久氏	平成28年 2月14日(日)	131人

### ●団体見学

26件1,554人(市内小学校16件、市外小学校6件、その他4件)

### ●資料の収集、保管状況

平成27年度末現在 収蔵資料総数 39,573点(民俗6,258点、歴史32,627点、美術657点、自然31点)

平成27年度新規受入資料数 32件(内訳：寄贈31件、購入1件)

購入資料：「山口余一宛新井石禅肉筆葉書」

### ●刊行物

「郷土資料館だより」112～114号 図録「三嶋曆(改訂版)」

「三島宿関係史料集7(三島 問屋場・町役場文書)」 「三島市郷土資料館研究報告8」

### ●平成27年度 開館日数308日 入館者数59,395人

## 寄贈資料の紹介

平成28年2月から6月までに、次の方々から寄贈のご協力をいただきました。ありがとうございました。(寄贈者の方の希望により個人名を伏せている場合があります。)

寄贈者	資料名	点数
山本 富恵氏(三島市)	棹ばかり(20貫おもり付属)	1点
柳下 登氏(三島市)	屏風(幕末～明治の書画)、軸(宇野陶民書画)、楽寿園開園記念徳利ほか	7点
佐野小学校(三島市)	教科書類(戦前～戦後)ほか	66点
橋本 せつ子氏(三島市)	顕微鏡	2セット
兵子 孝好氏(三島市)	8ミリ映写機	1点
個人(三島市)	ひな人形	1式
立見 庸子氏(三島市)	絵葉書セット(楽寿園、三島駅、三嶋大社)ほか	3点
個人(三島市)	古書(戦前の教科書類ほか)、古地図、絵葉書	1式
中井 正勝氏(熱海市)	掛軸(小松宮書)	1点
中西 克典氏(三島市)	銅製ヤカン	1点

## 平成27年度 第2回郷土資料館運営協議会

- 平成28年2月19日(金) 13:30～
- 三島市郷土資料館多目的室 ●出席者 11名

郷土資料館には館の円滑な運営を図るため、郷土資料館運営協議会が設けられています。平成27年度第2回郷土資料館運営協議会は、任期満了に伴う委員の改選を受け、12人の委員に対し委嘱状交付が行われました。

今回任命された委員の方々には今後2年間、郷土資料館の運営等について意見や助言をいただきます。それらの意見を参考にしながら館の資質向上に努めてまいります。

- 委員長 迫田 信行 ●副委員長 増島 淳
- 委員 加藤 雅功、奥村 徹也、竹林 重行、橋本 敬之、坪井 則子、齋藤 幸蔵、河合 龍明、小西 政司、埜瀬 紀子、大村 朱実(順不同・敬称略)



教育長より委嘱状交付

任期 平成27年12月10日～平成29年12月9日

## 平成28年度 郷土資料館職員の紹介

- 館長 加藤 織江 ●職員 石間 可奈子、平林 研治、柿島 綾子、福田 淑子、笹山 曜子

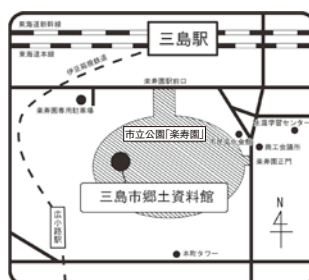
### 郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045

開館時間 午前9時～午後4時30分(11月～3月)  
午前9時～午後5時(4月～10月)

休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、  
年末年始

入館料 無料(ただし楽寿園入園料として別途  
300円がかかります。15歳未満は無料、  
学生は学生証提示にて無料。)



三島駅(南口)から徒歩5分。

### 郷土資料館だより

Vol.39 No.1(第115号)

発行日 平成28年8月1日(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館

発行 三島市教育委員会

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp

URL : <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>